

科目名	情報通信工学実験I	英文表記	Experiments of Information and Communication Engineering I		2013/3/15		
科目コード	2202						
教員名: 神里志穂子、山田親稔、長名保範(非) 技術職員名: 佐竹卓彦、比嘉修、畑亮次					作成		
対象学科/専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
情報通信システム工学科		2年	必	履修	2単位	実験	通年
科目目標	実験の指導書に従って、機器類を正しく操作し、実験を行うことができる。そして、フォーマットに従ったレポートに、実験結果をまとめることができることを目標とする						
総合評価	提出されたレポート(100%(前期50%、後期50%))の平均で評価し、60%以上を合格とする。但し、全ての実験を行い、それらのレポートを全て提出すること。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		目標割合	
	①	実験の指導書に従って、機器類を正しく操作し、実験を行うことができる。そして、フォーマットに従ったレポートに、実験結果をまとめることができる			→ 正しく実験が行えているかをレポートで評価する。		100%
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
	◎		○				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	100	0	100	
基礎的理解	①			80		80	
応用力(実践・専門・融合)						0	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲	①			20		20	
授業概要、方針、履修上の注意	情報通信に関する基礎的な直流・交流回路、論理回路、通信に関する基礎的な実験を行う。また、オリジナルのロボットを作成したり、レポート作成ツールの習得を目指す。グループ単位で実験を行い、一斉実験とローテーション実験を交えながら、全ての実験を行う。毎回、実験を始める前にその実験に関するプレレポートを提出し、実験終了後レポートを提出すること。						
教科書・教材	「改訂第5版 LATEX2e美文書作成入門」(技術評論社)、レポートの組み立て方(筑摩書房)						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェツ
1	授業ガイダンス	2	シラバスを用いて、授業の進め方を説明する。実験の進め方、データ整理、考察、レポートの作成方法なども		
2	レポート作成ツール実験(一斉実験)	2	レポート作成のためのTeXを説明する。主にインストール作業を行う。		
3		2	TeXの演習を行う。		
4		2	グラフ作成ソフトと作図ソフトのインストールと演習を行う。		
5		2	TeXの総合演習を行う。		
6	論理回路実験(一斉実験)	2	ロジックボードを用いて、AND、OR、NOTやコーダ、エンコーダ、フリップフロップの基礎的な実験を行う。	予レポート及びレポート作成	
7	アルゴリズム基礎実験(一斉実験)	2	ソート、サーチ、迷路などのアルゴリズムをグループ毎に構築する。	〃	
8	実験のまとめ	2	これまでの実験をまとめる。	〃	
9	アルゴリズム基礎実験(一斉実験)	2	ソート、サーチ、迷路探索などのアルゴリズムをグループ毎に構築する。	〃	
10		2	アルゴリズムの発表を行う。	〃	
11	直流回路実験(ローテーション実験)	2	直並列回路に関する実験を行う。理論、シミュレーション、実測の違いを習得する。	〃	
12		2	指示電気計器に関する実験を行う。指示電気計器の内部抵抗について習得する。	〃	
13		2	指示計器の分流と分圧や抵抗測定や様々なブリッジ回路に関する実験を行う。	〃	
14	交流回路実験(ローテーション実験)	2	発振器とオシロスコープに関する実験を行う。	〃	
15		2	これまでの実験をまとめる。	〃	
期末	期末試験	[2]			
16	後期ガイダンス	2	レポート作成、添削、レポート未提出者の再実験を行う。	〃	
17	プログラミング基礎実験(ローテーション実験)	2	プログラムの基礎に関する実験を行う。	〃	
18		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
19	交流回路実験(ローテーション実験)	2	コイルとコンデンサに関する実験を行う。自作したコイルとコンデンサを用いて、それらの基本的な特性を習得す	〃	
20		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
21		2	微分回路と積分回路に関する実験を行う。理論と実際の回路の関係について習得する。	〃	
22		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
23	簡単なテスト、実験のまとめ	2	実験に関する簡単なテストを実施する。これまでの実験をまとめる。	〃	
24	交流回路実験(ローテーション実験)	2	共振回路に関する実験を行う。理論と実際の回路の関係について習得する。	〃	
25		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
26	テスト返却、レポート指導	2	簡単なテストを解説する。レポート作成の指導を行う。	〃	
27	交流回路実験(一斉実験)	2	電子工作キットを用いた実験を行う。	〃	
28		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
29		2	前週の実験の続きを行う。	〃	
30	実験のまとめ	2	これまでの実験をまとめる。		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
① レポート(その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。)				各2時間×12回	
備考欄					